

農作物等台風対策マニュアル

令和6年2月
沖縄県 農林水産部

農業保険制度情報
(NOSAI沖縄、農林水産省HP)



<https://nosai-okinawa.jp/>
<http://www.maff.go.jp/j/keiei/nogyohoken/>

本冊子PDF版
(沖縄県HP)



<https://www.pref.okinawa.lg.jp/site/sangyo/nogyo/index.html>

沖縄気象台
台風情報



<https://www.data.jma.go.jp/okinawa/typhoon/information/index.html>

あいさつ

沖縄県では、亜熱帯の地域特性を活かした、さとうきび、ゴーヤー、きく、マンゴー等の農作物の生産が県内各地域で多様に展開されています。

これら農作物を安定的に生産していくためには、肥培管理や病害虫対策等と同様に、台風対策も極めて重要な要素となります。

本県では7～9月をピークに春から秋にかけて台風の襲来があり、被害の程度は台風の勢力にもよりますが、毎年、農作物や施設に大きな被害を及ぼし、農家経営に大きな損失を与えています。

そのため、農業における台風対策にフォーカスした「沖縄県における台風とその対策（平成19年度作成、平成23年度改正）」を発行し、台風被害の軽減対策の参考となるよう具体的な対策事例を示してきたところです。

今後は、近年の地球温暖化の進行等による台風の大型化を想定するとともに、高齢化等による担い手の減少を踏まえた上で、台風被害の軽減対策や農業保険制度等による事前の対策も講じる必要があります。

そこで、今回、表題を「農作物等台風対策マニュアル」と改題し、台風対策に加え、事前の備えである農業保険制度等も含めて網羅的に編成しました。本冊子が、各生産現場における台風への備えと、復興の一助となれば幸いです。

令和6年2月

農林水産部
部長 前門 尚美

目次

1 台風の発生状況と被害状況	1	4 防風林の整備	28
(1) 台風の発生状況	1	(1) 防風・防潮林整備の重要性	28
(2) 台風の被害状況	1	(2) 防風・防潮林の効果	28
2 台風被害軽減のために	3	(3) 防風・防潮林の効果の実際	29
3 台風対策の事例	5	① 施設被害軽減効果	
(1) 野菜の台風対策	5	② 防潮林による潮害軽減効果	
① 事前対策		③ 防風林・防風垣の基本的な設置方法	
② 事後対策		④ 各作物における防風林(垣)設置事例	
③ 台風対策の実際		(4) 「防風林の日」について	36
(2) 花きの台風対策	12	5 施設の管理と補強方法	38
① 事前対策		(1) 事前のチェックポイント	38
② 事後対策		(2) 園芸施設の保守	41
③ 台風対策の実際		(3) 施設の補強事例	43
(3) 果樹の台風対策	17	(4) パイプハウスの台風対策	44
① 事前対策		(5) 耐風性に優れた園芸施設等	45
② 事後対策		6 施設整備（補助事業）	47
③ 台風対策の実際		(1) 特定地域経営支援対策事業	47
④ 潮害の対策		(2) 沖縄型耐候性園芸施設整備事業 ..	48
(4) さとうきびの台風対策	24	7 制度資金	49
① 事前対策		(セーフティネット資金 等)	
② 事後対策		8 農業共済制度・収入保険制度 ...	52
③ 台風被害と対策		9 営農相談窓口	54
④ 対策事例			
⑤ 台風に強い主な品種			

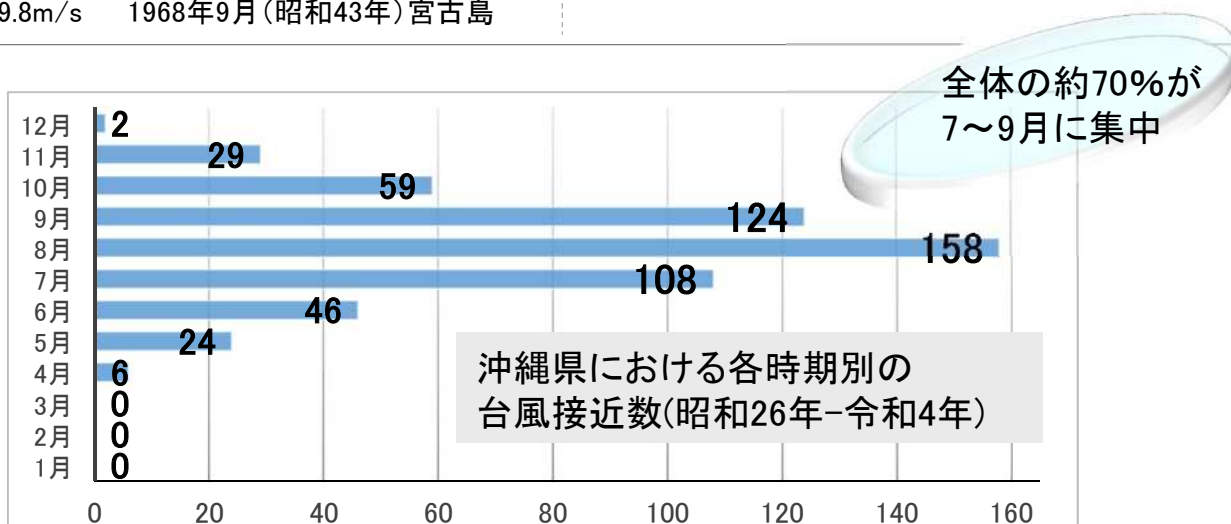
1 台風の発生状況と被害状況

(1) 台風の発生状況

- 沖縄県は台風の常襲地域であり、過去72年間に発生した台風1,881件のうち約28%の532件が沖縄県に接近しています(昭和26年～令和4年)。
- また、毎年平均7.7個の台風が接近し、風による農作物への被害やハウスの倒壊、潮による潮害や大雨による土壌の流出、冠水など、農家経営に多大な影響を及ぼしています。
- 令和5年の台風6号は、長期間(7月31日～8月7日)にわたり沖縄県全域に襲来し、大きな被害をもたらしました。
- 農家経営を安定・維持していくためには、台風対策は絶対に必要不可欠です。

過去の最大瞬間風速

1位 85.3m/s	1966年9月(昭和41年)宮古島	4位 74.1m/s	2003年9月(平成15年)宮古島
2位 81.1m/s	2015年9月(平成27年)与那国島	5位 73.6m/s	1956年9月(昭和31年)那覇
3位 79.8m/s	1968年9月(昭和43年)宮古島		



参考文献:国土交通省気象庁/各種データ・資料 <https://www.jma.go.jp/jma/menu/menureport.html>

* 台風の中心が沖縄県気象官署等から300km以内に入った場合を「沖縄地方に接近した台風」としています。接近は月をまたぐ場合があり、各月の接近数合計と年間の接近数とは必ずしも一致しません。

(2) 台風の被害状況

① 風害

平成15年9月
台風14号
最大瞬間風速
74.1m/s



●施設の突風による倒壊



●施設の突風による倒壊

(続き ① 風害)



●パパイヤの被害
パパイヤは葉が大きく台風の影響が出やすい。



●スイカの被害
ハウスビニールがはがれ、葉茎が裂傷、果実が散乱している。

② 潮害



●さとうきびの潮害
葉が枯れ上がり、生育遅れや品質低下を生じる。



●マンゴーの潮害
葉の枯れ上がりが助長された。

③ 湿害



●大雨により冠水した後のキュウ畑
立ち枯れが発生している。



●大雨により冠水した後のスイカほ場
病害等による二次的被害も招く。

2 台風被害軽減のために

●台風が襲来すると・・・

- (1) 強風による被害⇒「**風害**」
 - (2) 強い風により海水が飛散することにより起こる被害⇒「**潮害**」
 - (3) 大雨などによる畑への冠水により引き起こされる被害⇒「**湿害**」
- により、農作物やハウス等の施設に大きな被害をもたらします。

●台風による被害を軽減するためには・・・

- (1) 台風が襲来する前に、施設等の倒壊を防ぐための準備や農作物にネットを被覆するなどの「**事前対策**」
 - (2) 台風通過後、農作物の葉や茎に付着した塩を洗い流したり、作物の草(樹)勢を回復させるため、液肥の葉面散布を実施するなどの「**事後対策**」
- が必要です。

台風襲来



風害



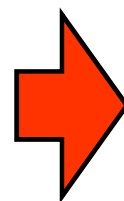
潮害



湿害



農作物やハウス等農業施設に甚大な被害を生じます。



台風被害を少しでも軽減するためには、できることから取り組みましょう。

● 甚大な台風被害を防ぐためには・・・

「台風襲来前後の対策」と「日頃からの備え」を組み合わせ、総合的な対策を行うことが大切です。

複数の対策を組み合わせ、甚大な台風災害に備えましょう！

台風襲来前の対策

こまめに情報収集

TV・ラジオ・Webなど

沖縄気象台
台風情報↓



- ・台風の進路、勢力暴風域、風速、気圧降雨量等

作物、圃場環境に応じた事前対策



- ・枝、株等の固定
- ・ネットによる被覆
- ・病害対策
- ・排水対策
- ・施設の補強等

台風通過後の対策

作物に応じた事後対策



- ・除塩、薬剤散布
- ・草勢・樹勢回復
- ・施設の点検・補修

日頃の備え

防風林の植栽



- ・樹種の選定・植栽
- ・適正な管理

樹高の管理



- ・台風対策を考慮した樹高・樹形

施設等のメンテナンス



- ・ボルトの交換
- ・施設補強 など

ほ場の立地状況確認



- ・周囲の環境、風あたり
- ・排水状況 など

防風施設等の設置



- ・栽培体系や経営に適した施設の導入

ほ場環境整備



- ・資材類の整頓
- ・廃棄物の保管場所

3 台風対策の事例

(1) 野菜の台風対策

① 事前対策

台風時期には前もって下記の対策を行いましょう。

露地栽培・施設栽培共通の対策

- (A) 収穫できるものは前もって収穫をしておく。
- (B) 冠水や浸水が予想されるほ場では、ほ場及びほ場周辺の排水路の点検を行い水はけを良くする等、排水対策を行う。
- (C) 苗は日あたりの良い納屋などに移し、被害を軽減する。
- (D) 降雨量が少ない場合は、潮害が懸念されるため、ほ場周辺に防風垣を設置する等、対策を行う。
- (E) 台風通過後に想定される病害対策として農薬など準備しておく。

露地栽培

- (A) 地這い栽培のゴーヤー、とうがん、葉菜類などは防風ネットで被覆し、飛ばされないようしっかり固定しておく。
- (B) オクラは地表より約40cmの高さで切り戻しをする。
- (C) レタスなどのマルチは土のう等で押さえ、破損している箇所は補修しておく。

施設栽培

- (A) ビニールハウスは押さえバンドをしめ、補強する。破損箇所は補修する。
- (B) 耐風性の低いパイプハウスで栽培中のゴーヤー、キュウリなどはつり金からネットをはずし、つるを畝の中央部付近に下ろして防風ネットで被覆する。



防風ネットによる台風対策状況

② 事後対策

台風通過後は下記の対策を行いましょう。

露地栽培・施設栽培共通の対策

- (A) じかがけした防風ネット等は早めに取り除く。
- (B) 潮害が心配されるほ場では早めに散水し、葉や茎に付着している塩分を洗い流す。
- (C) 株に泥が付着したままだと生育が衰えるので、水で洗い流す。
- (D) 冠水したほ場は速やかに排水させる。マルチの上に溜まっている水は早めに除く。
- (E) 倒れた株は早めに元に戻し、土寄せを行う。
- (F) 台風通過直後、草勢の低下が見られる場合は、葉面散布等で草勢の回復を図る。
- (G) 肥料の流亡が懸念される場合には追肥等を行い草勢の回復を図る。
- (H) 傷葉、折損枝などは除去し、病害予防のため農薬散布を行う。
- (I) 欠株は補植し、被害が大きい場合は、植え替える。
- (J) 納屋などに移した苗はビニールハウスなどに移動し徒長を防ぐ。日中に移動すると強い日射しで日焼けを起こすことがあるので注意する。

露地栽培

- (A) じかがけした防風ネット等は早めに取り除く。

施設栽培

- (A) 倒した株は早めに起こし、再度誘引する。また、つる下ろし方式等により下ろしたネットは再度つり金にかけ固定する。



ゴーヤー等つるを下ろした株は早めに起こし、再度誘引する。

③ 台風対策の実際

(A) ネットを利用した対策方法

オクラ



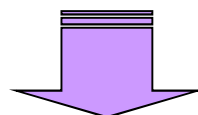
じかがけ方式によるオクラ台風対策

対策なしでは被害が大きい



台風対策をしていないオクラの被害状況

一部ネットによるスレは見られるものの被害最小



ネットじかがけ方式対策による生育差



じかがけ方式の他、うきがけ方式によるオクラの台風対策の状況



台風通過後30日目

左側(対策あり)

右側(対策なし)
被害後蒔き直し

葉野菜類

台風対策をしていない
葉菜類の被害状況



ネットを利用して対策を行
い被害を軽減させましょう。



じかがけ方式による台風対策の状況



うきがけ方式による台風対策の状況

スイカ



じかがけ方式による対策の状況

とうがん



台風時は、トンネルを被覆している
ネットでじかがけする。

へちま



じかがけ方式による対策の状況



7日後

ピーマン



トンネルがけ栽培による対策
台風襲来期に定植するピーマ
ン栽培で普及している。

対策したことにより側枝伸長が見られる

(B) オクラの切り戻しによる台風対策

切り戻したほ場の生育状況

台風通過前に地表面より約40cmの高さで切り戻す



9日後

草勢の回復が早い



被害が少なく、台風通過後20日～30日で収穫できる。



切り戻し あり

切り戻しをしていないほ場の被害状況

風で株が倒されている



9日後

根腐れが発生
枯れている



草勢の回復
が遅い

葉の破損や枝の枯れ上がりがあり被害が大きい。



切り戻し なし

台風通過前のオクラ切り戻しあり、なしの違いにより、その後の生育差が大きくなる。

(C) ゴーヤーのつる下ろし方式による対策方法

台風時はつるを下ろし、防風ネットで被覆する。
つるはマルチ上に下ろし、雨水の被害を防ぐ。

普段は立体栽培



対策あり



対策なし

台風通過後

つるを下ろさなかったほ場



被害が大きい



被害が少ない

つるを再度誘引したほ場

対策のポイント

台風通過前につる(ネットごと)を下ろし、通過後つるを再誘引する。



ネットの固定に支柱を使用せず、ネットが
つり金からはずしやすいようにする。



台風発生時に施設谷間等で準備しておく。

(D) 防風林(垣)を活用して防風効果を高めている事例



台風通過後の状況
宮古地域で多くの被害がでたが、本施設では防風垣の効果により被害は軽かった。



平張施設の周囲に防風林を設置している。



さやいんげんの防風(ネット)対策
台風時は防風ネットでうきがけする。



とうがん栽培におけるさとうきびの防風垣。

(E) その他の事例



ゴーヤーの防風対策
台風時は棚を倒して、防風ネットで被覆する。

(2) 花きの台風対策

① 事前対策

- (A) 冠水被害は病害助長や根腐れの原因となるため、圃場内および周辺の排水路を点検する。
- (B) マルチは土のう等で押さえ、破損している箇所は補修する。
- (C) 露地栽培はトンネル資材や防風ネットなどを利用して、うきがけまたはじかがけを行う。
- (D) 平張施設等においては、ネットや接合部分等の破損部を確認し、修復を行う。また必要であれば、側面に2重ネット被覆をする等の補強を行う。
- (E) 殺菌剤や活力剤の予防散布。
- (F) 台風通過後、停電時でも直ちに散水ができるよう動力噴霧器やタンク等を準備する。
- (G) キクについては、台風の接近前に親株から採穂できる苗は摘んで、冷蔵庫に保管する。また電線や電球の片付けを行う。
(※台風の接近が深夜の場合、日入り頃からできるだけ電照時間を稼ぐ)。

② 事後対策

- (A) うきがけの場合は、台風通過後の強光対策で側面開放し、風通りをよくする。また、じかがけの場合は早めに片付ける。
- (B) 日が照る前に、葉や茎に付着している塩分や泥を真水で洗い流す。
- (C) 冠水している圃場は早めの排水を図る。
- (D) 倒伏している株や根が露出している場合は早めに土寄せや培土を行う。
- (E) 殺菌剤や活力剤の散布を行い、病害助長を防ぎ、発根促進に努める。
- (F) 破損した株や枝は早めに片づけ整理する。
- (G) 肥料流亡や草勢低下が考えられる場合、葉面散布(アミノ酸)を行うが、速効性肥料は台風直後は控え、草勢を見ながら施用する。
- (H) キクについては、電線、電球、タイマーなどの電照設備の点検・修理を行う。また3日以上停電する場合、花芽抑制対策として、発電機使用の検討やエスレル処理(散布方法等は指導員に要相談)を行う。また花芽検鏡等で花芽を確認した場合は切り戻しを検討する。

③ 台風対策の実際



茎葉の損傷、倒伏被害が大

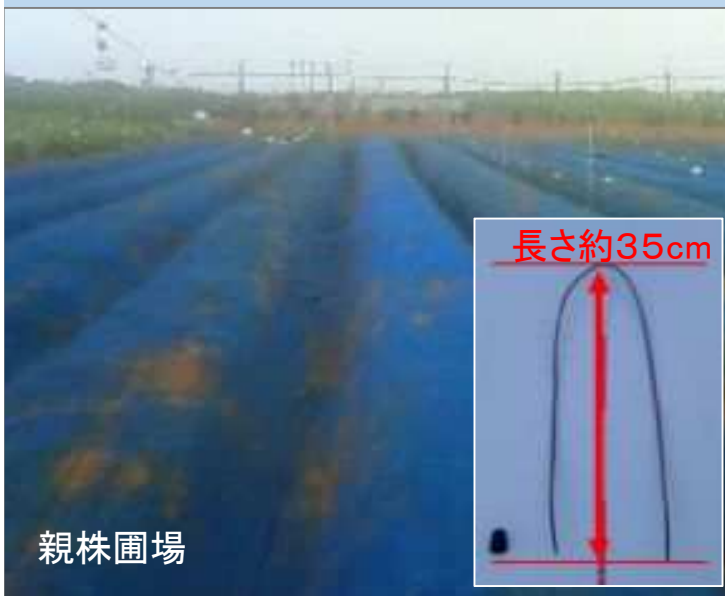
対策
▶▶▶▶



茎葉の損傷、倒伏がみられず、生育は順調

事例 A (じかがけ)

防風ネットを直接被覆する方法。ネットの重みで株が動きにくいいため、根が回されにくく、被害が抑えられる。しかし、すぐに採穂ができないことや、葉茎にスレや傷みを伴うデメリットがある。草丈が短い生育初期の場合がよい。



親株圃場

長さ約35cm



本圃場

防風ネットを止めるU字型の針金を約1.5mおきに固定

事例 B (うきがけ)

支柱パイプ、パッカー等を使用し、防風ネットを被覆する方法。
ネットが生長点に触れないように注意する。



防風ネットをうきがけし、ネット端は鉄筋等を深く差し込みはがれないようにする。



防風ネットはパッカーでパイプに固定し、はがれないようにする。



ネット両端は束ねて固定する。



両端はネットを重ねる事例。



台風通過後の強光対策と風通し。



次期台風の備え。

事例 C (平張施設)



露地

強風及び降雨により茎葉への泥はねや土壌の流出がみられる。



施設内(被害軽減)



風上側の側面2重ネット対策(最上段は開けておく)



施設内の台風対策事例



出入口の扉の固定

事例 D (防風林・防風垣を利用した被害軽減)



圃場周辺を防風ネットを取り巻く



平張施設周囲の防風垣(ブツウゲ)



平張施設周囲の防風ネット



ブツウゲを利用した防風垣



千年木を利用した防風垣

(3) 果樹の台風対策

① 事前対策 台風時期には前もって下記の対策を行いましょう。

露地果樹

- (A) 台風の被害を最小限に抑えるため、防風林(垣)の設置が未整備の場合は、前もって防風ネットの設置を行う。
- (B) 未結実園地では、将来の骨格となる枝梢を支柱等で固定し、折損防止に努める。
- (C) 台風後の病害発生を防止するため、台風接近前に果樹品目に応じた使用可能な殺菌剤(銅水和剤等)を散布し、予防に努める。通過後の散布より効果が高いことが報告されている。
- (D) 台風通過後の潮害防止のため、樹上散水用の水を10a当たり2~3tを目安に確保する。
- (E) 大雨に備えて集排水路の掃除など事前に対策を行う。

施設果樹

- (A) 永年性の果樹を台風から保護するために、角鋼や耐候性ハウスでは防風ネットを利用し、屋根、側面、妻面などを被覆する。
- (B) 強化型ハウスでは、内側の果実吊り棚にネットを設置すると、台風被害防止効果が高い。特にマンゴーなどの収穫期を迎えたハウスについては可能な限り、ネットの二重被覆を検討する。ただし、ネットの設置方法等により目合いを考慮する。
- (C) ハウス出入口、天窓、谷間換気部は、強風による破損が多いので、補強材等で固定する(写真左・中央)。ハウスによってはドアのビニールを外してネットだけにする。
- (D) 花吊り、果実吊り等の吊り糸については、強風により枝等に絡み、損傷を与えるため、収穫後は直ちに園内から回収するか、からまないようにまとめて縛っておく。
- (E) 施設のネットは、設置後数年を経過すると、ネットの縫い目部分の劣化等により切れる可能性が大きいので、必要に応じて事前に取り替えておく。
- (F) 腐食等による施設本体の強度の低下がないか、アンカーやボルトの締め付け部の緩みはないかチェックを行い、必要に応じて補修する。
- (G) 屋根被覆ビニールが巻き上げ式で開閉できる場合、広げた状態だとパイプ破損など台風被害を受けやすいため、巻き上げて固定しておくことを推奨する。



ハウスの出入口、天窓、谷間換気部の被害が大きい。



ハウスの出入口や天窓、谷間部分は補強材でしっかりと固定する。



防風林が配置されていると台風被害も軽減される(石垣市)。

② 事後対策 台風通過後は下記の対策を行いましょう。

露地果樹

- (A) 潮害が心配される果樹園については、台風通過後、6時間内に、スプリンクラー、かん水用ホース、鉄砲ノズル等を利用し、10a当たり2～3tを目安に、樹体に付着した塩分除去に努める。その際、防風林(垣)、防風ネット等が未整備で、葉のスレが著しい園では、潮害の発生が助長されるので、特に被害軽減に努める。
- (B) 台風後の病害の拡大を防止するため、果樹品目に応じて使用可能な殺菌剤(銅水和剤等)を散布し、被害軽減に努める。
- (C) 倒伏した果樹、防風樹については、健全な根を切らないように、出来るだけ早めに引き起こし、支柱等で固定する。
- (D) 落葉が著しい場合は、日焼け防止のための白塗剤の塗布や樹勢に応じた液肥の散布、果実の摘果等を行い、樹勢の回復に努める。

(引用:果樹の風害・潮害対策のてびき(財)中央果実生産安定基金協会)

施設果樹

- (A) 潮害が心配される果樹園については、台風通過後、6時間内に、スプリンクラー、かん水用ホース、鉄砲ノズル等を利用し、10a当たり2～3tを目安に、樹体に付着した塩分除去に努める。
- (B) 防風ネット等の破損により、樹体に損傷を受けている場合は、病害の拡大を防止するため、使用可能な殺菌剤を散布し、被害軽減に努める。また、樹勢に応じた液肥の散布、果実の摘果等を行い、樹勢の回復に努める。特に損傷が激しく、枝の枯れ上がりが想定される場合は、強い剪定は避け、病害の被害拡大防止に努める。
- (C) 防風ネット等に破損が見られた場合、次期の台風接近に備え、早めに補修を行う。
- (D) 落果果実があった場合は、出来るだけ早く園内から除去し、適切に処分する。
- (E) 施設内に停滞水が見られる場合は、早急に排水対策を行う。
- (F) 台風通過後の強い日差しで、果実への日焼けが心配される場合、ネット等で遮光を行う(写真)。



ハウス内部に遮熱ネットを被覆し、日焼け対策を施した事例(石垣市)



台風通過後、強い日差しから果実への日焼けを防ぐため、ネットで遮光・遮熱対策を行った事例(今帰仁村)

③ 台風対策の実際

(A) 防風林(垣)を利用した対策

～大型ハウスや簡易パイプハウス栽培でも 防風林(垣)の設置で、台風の被害軽減効果は大きい。～



防風垣(ネット)を設置しての対策 (宮古島市)

防風林とネット栽培を組み合わせた柑橘園(名護市)



防風林側は、バナナへの被害が軽減できた。(西原町)

平張施設内は、露地と比較し、被害を軽減できる。(中城村)

(B) マンゴー等の防風ネットを利用した対策

古くなったネットでは、縫い目などからほつれや破損が起こり、特に収穫期にネットが強風で破れてしまうと果実への被害が大きくなる。
また、ネットの目合いに応じた設置をしないと強風時にネットが外れ、被害が大きくなる。



台風前、ハウス谷間部分に防風ネットを準備する。台風接近時にネットを広げ、強風対策。(県立農大)



対策例



ハウスの内部(果実棚)にネットを配置し、二重にすることで、果実落下及び新梢等の被害軽減に効果が高い。(宮古島市)



ハウスの内部へのネット配置については、バタつかないように設置する。



ハウスの妻面や側面に、ハウス内側からネットを準備し、台風接近時に被覆して、対策を行っている事例。(石垣市)



通常は、ネットをハウスの端に固定しておく

※台風通過後は、気象状況に応じて速やかにネットを開けて換気を促す。

(C) 防風施設等を利用した熱帯果樹類の台風対策

ネット資材で被害が軽減されたパッションフルーツ



株が小さい時は株と支柱を倒して、ネットで抑える。



内張ネットにより台風被害を受けなかった事例



内張ネットが強風で外れ被害を受けた事例



主枝先端の成長点をネット袋で覆って、台風被害を受けなかった事例

主枝先端の成長点が強風で切れてしまった事例



ハウス周囲の防風垣と防風ネットにより減風効果が大きかった事例

(D) 防風林を活用した柑橘類の台風対策



県内において防風林が整備された優良柑橘園地の一風景(うるま市)



密閉率を考慮され刈り込まれたイヌマキの防風林



防風林と平張施設を併用し、高品質で安定生産に取り組んでいる。



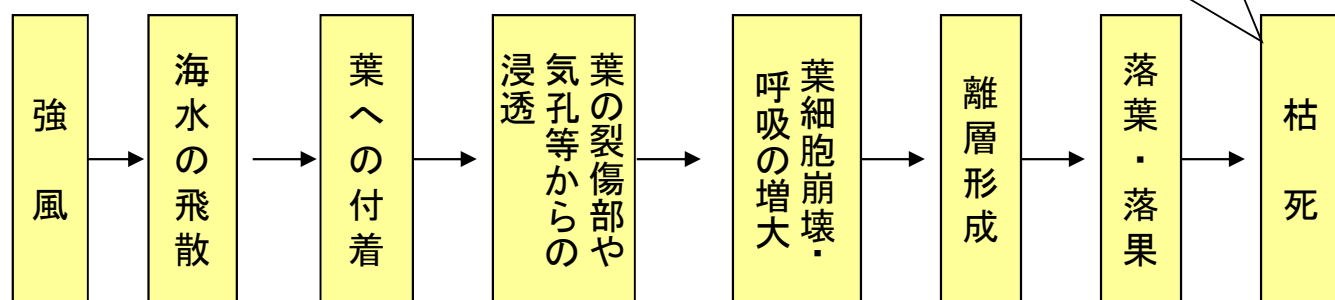
台風等による風スレ果も少なく、外観が良い。



高接ぎ更新の際は、接ぎ木部分(台木と穂木及び新梢)を竹等の支柱で固定する。

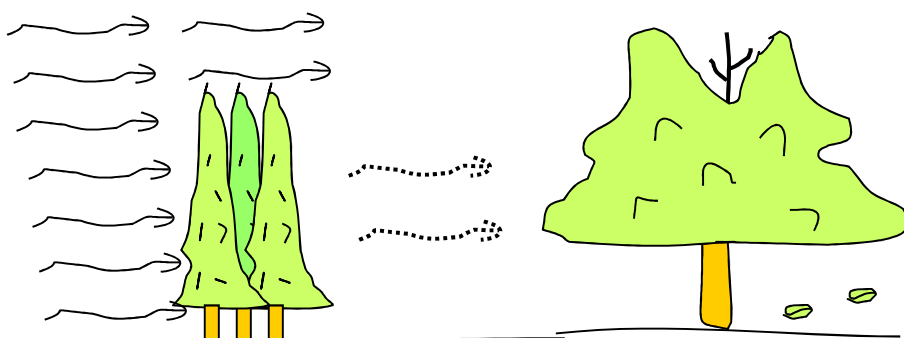
④ 潮害の対策

潮害発生仕組み(柑橘類の場合)



台風の進路、降雨の有無によって、潮害の発生しやすい園を常にチェックすること。

潮害発生が心配される果樹園では、直ちに散水し、**除塩対策**を！



防風林や防風施設があると、潮害の発生も軽減される。

潮害の事後対策

(除塩対策)

潮害の発生が心配される果樹園では、台風通過後、6時間内に、スプリンクラー、かん水用ホース、鉄砲ノズル等を利用し、10a当たり2~3tを目安に、樹体に付着した塩分の洗い流しに努める。10時間以上たってからの散水では効果が無いとされている。

(病害対策)

台風通過後は、果樹品目に応じて使用可能な殺菌剤(銅水和剤等)を散布し、被害軽減に努める。

(樹勢回復)

落葉の程度によって、摘果等を行い、樹勢の維持に努める。特に落葉の著しい樹は無剪定とし、追肥を行い樹勢回復に努める。

(4) さとうきびの台風対策

① 事前対策

台風に備えて、下記の対策を行いましょう。

茎の折損防止

- (A) 生育初期の梢頭部は折損しやすいので、早期植え付けで茎長を確保する。
春植は3月までに、夏植は遅くとも10月までには植え付ける。
- (B) 風当たりの強い場所は、耐風性の品種に更新する。
- (C) 品種構成は、Ni27(農林27号)などの風折に弱い品種に偏らないように、複数の品種を栽培する。
- (D) 良質な苗を確保するために、採苗圃は防風林帯のある場所、または風当たりの弱い場所に設置する。

葉の裂傷・潮害の防止

- (A) 防風林や防風垣の設置により被害軽減を図る。

茎の倒伏防止・土砂の流亡防止

- (A) サブソイラ等による深耕で心土破碎し、水の透排水性改善や深く根を伸長させる。
- (B) 植付は深植えを行い、適期培土で分けつ茎数を確保して根量を増やす。
- (C) 根張りを強くするため、高培土は株元までしっかり土入れを行う。

② 事後対策

台風通過後は下記の対策を行いましょう。

- (A) 速やかに散水し、葉に付いた塩分を洗い流す。
- (B) 折損被害が甚大な場合は植え替えを行う。または、株揃えし採苗圃として利用する。
- (C) 台風で折損被害を受けた株は、採苗が可能な場合、苗として利用する。
(例:6~7月の折損茎は、春植用採苗ほの苗として、8月以降の折損茎は、夏植えまたは補植用の苗として利用)
- (D) 倒伏や土壌流亡による根の浮き上がりは、株元への土寄せを行い、樹勢の回復に努める。
- (E) 植付け直後、植溝が土砂で埋没した場合は、芽掘り作業により土を除去し、発芽促進に努める。
- (F) 苗が流亡して欠株になった場所は、補植を行い茎数を確保する。

③ 台風被害と対策



④ 台風被害と対策事例



折損被害は、品種や台風の接近時期も関係する。強風による折損被害は、茎伸長のしなりで軽減出来る場合もある。



梢頭部折損被害の状況。茎長が短い時期の台風接近は、風折に弱い品種で大きな折損被害を受ける。



台風通過2日後の海岸近くのほ場における潮風害の状況。潮害発生で葉が一面茶色くなっている。



左記写真の様な潮害を防ぐために、台風通過後、速やかにスプリンクラー等で散水を行い、葉に付いた塩分を洗い流し、葉の回復を図る。





浅植えや高培土の土入れが悪いと、倒伏により株元の根が浮き上がる。浮き上がった株元は、土寄せにより回復を図る。



植付直後、台風の大雨で土砂が流れ込み、植溝が埋没した圃場での芽堀作業の様子。

⑤ 台風に強い主な品種

沖縄県のさとうきび奨励品種の中で耐風性が「強」の品種です。

		
<p>Ni21(農林21号)</p>	<p>Ni22(農林22号)</p>	<p>Ni28(農林28号)</p>
<p>(特徴)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・風折抵抗性に優れている。 ・潮害後の収穫でも糖度が高い。 ・茎は中～太い「茎重型」 <p>(普及対象地域)</p> <p>久米島地域</p>	<p>(特徴)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発芽や萌芽、初期伸長が優れている。 ・早期高糖で12月収穫も可能で可製糖量が多い。 ・茎は細い「茎数型」 <p>(普及対象地域)</p> <p>八重山地域</p>	<p>(特徴)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・風折抵抗性が強く、耐倒伏性もよい。 ・早期高糖で株出し萌芽が良く、多収。黒穂病に極強。 ・細～中茎「茎数型」 <p>(普及対象地域)</p> <p>南大東地域</p>

※ 普及対象地域以外においては、沖縄県農業研究センター、各地区農業改良普及機関等へご相談下さい。